

科目名	ク リ ー ン 農 業 論	教員名	は ち ぢ や か ず ひ こ 八 谷 和 彦	開 講 コ ー ス	作 物 生 産 花 園 芸	1 年 次	後 期
<p>・ 目的と内容</p> <p>20世紀の人類は、利便性追求型の大量生産・大量消費・大量廃棄社会を生み出し、多くの負の遺産を残した。このような反省から、21世紀は環境と農業の時代と言われるようになった。目指す農業の姿は、人と作物と家畜に優しく環境と調和のとれた環境保全型農業、すなわち「クリーン農業」にあると考える。本講義では、このような視点で農業の可能性やあり方を考えるとともに、クリーン農業の理念を習得できる内容としたい。</p>							
<p>・ 授業計画 [単位数：2 単位、授業週数：15 回]</p> <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . 環境農学とクリーン農業 2 . 農耕の起源と発展 3 . 文明の興隆と衰退 4 . 拡大を続ける人類の活動 5 . 化学肥料・農薬がもたらした光と陰 6 . 日本の食料・物資の収支 7 . 肥料・農薬と環境容量 8 . アメリカの低投入持続的農業、EUの農業環境政策 9 . 日本の環境保全型農業の取り組み 10 . 農業にも規範・基準の時代 11 . 有機農業とは何か - その理念、技術、現状 12 . 環境行政と環境関連法令 13 . 北海道農業の現状とクリーン農業の推進 14 . クリーン農業の作物生産技術 15 . 全体総括、期末試験 							
<p>・ 講義の進め方</p> <p>毎回配布するプリントをベースにして進める。</p>							
<p>・ 試験と成績評価</p> <p>記述式の期末試験を行う。これに“出席カード兼小テスト”等を使って把握した受講状況を加味して成績評価する。この科目の単位を取得するには、授業を聴き、要点や考え方を的確に把握することが必要である。</p>							
<p>・ 担当教員から受講生諸君へ</p> <p>知識を一杯詰め込んでも、その活用法を誤っては意味がない。本講義は、今後目指すべき農業、すなわち環境に優しく持続的な農業のあり方を理解してもらうことを主眼としているので、常に考える姿勢を持って講義に臨んで欲しい。</p>							
<p>・ 使用教材</p> <p>教科書： プリントを毎回配付する。</p> <p>参考書： 『クリーン農業時代』相馬 暁監修（チクマ秀版社） 『北海道 いま農業が面白い』相馬 暁（北海道新聞社） 『2020年 農業が輝く』相馬 暁（北海道新聞社） 『クリーン農業導入手引き書』北海道農政部編（北海道農業改良協会）2002</p>							